

第2回マチミチ会議 in 神戸

開催レポート



【2回目を迎えたマチミチ会議は、三宮の大改造を目指す神戸にて開催！！】

街路空間を“クルマ中心”から“ひと中心”へ、そんな思いを込めて昨年度3月に第1回を開催した「全国街路空間再構築・利活用推進会議」（通称：マチミチ会議）が、2020年1月24日に2回目を迎えた。第2回マチミチ会議は、三宮を人中心の空間へと大改造しようとし、様々な先進的な取組を進めている神戸市と共催で開催されました。前回の第1回の会議を上回る400人以上の参加があり、“ウォーカブル”なまちづくりへのムーブメントが着実に広がっているのをひしひしと実感させられました。

今回の会議プログラムは、

～①行政セッション～

主催の国土交通省・神戸市による

「ウォーカブルな都市空間の実現に向けて」をテーマに取組紹介

～②プレゼンセッション～

公共空間の「作り方」「使い方」のスペシャリスト3名をお招きし、

「これからのストリートが果たすべき役割」をテーマにプレゼンテーション

～③ディスカッションセッション～

コーディネーターに神戸芸術工科大学 教授 長濱伸貴氏をお迎えして、

①・②の登壇者が公共空間に関して幅広くディスカッション

の3部構成で行なわれました。

冒頭には国土交通省 大臣官房審議官 内田欽也氏、神戸市 副市長 油井洋明氏による開会挨拶があり、内田官房審議官は、25 年前の震災から今に至るまでの復興を振り返ったうえで、都市局の政策の柱の一つとして「歩きたくなる、居心地の良いまちなかづくり」を支援する様々な施策の準備をしていることを明かしました。また、油井副市長は、震災から 25 年経過し、社会基盤施設の壊滅的な被害から復興は成し遂げつつある一方、三宮の再整備が出来ておらず、現在官民で進めていること、それに加えて駅から駅、駅からまちなかへと移動しやすい空間づくりを進めていくことを語りました。



国土交通省・神戸市による冒頭挨拶

参考：出席者によるリアルタイム参加型システムを導入！！

本会議では、昨年度のマチミチ会議に引き続き、参加者が手持ちのスマートフォン等のデバイスから、リアルタイムでコメントや質問を投稿できるシステムを導入しました。

会議冒頭に出席者に操作説明を兼ねたアンケートなどを行うとともに、会議中に頂いたコメントをディスカッションで取り上げる等、会議全体を通して活用することで、参加者からは好評をいただきました。参加人数が多いと、質問をしにくくなるのが通常ですが、このような ICT を活用したシステムを採用すること等で幅広く多くの意見・質問をいただける会議形態の重要性を感じられました。



冒頭に操作説明を兼ねたアンケートを実施



手持ちのデバイスによりリアルタイムに投稿が可能

【ウォーカブルな都市空間の実現に向けて！国交省と神戸市による取組紹介】

行政セッションでは、「ウォーカブルな都市空間の実現に向けて」をテーマに国土交通省及び神戸市のそれぞれの取組紹介を行いました。



国土交通省・神戸市による取組説明

まず始めに、国土交通省よりウォーカブル関連施策に関する最近の動向について説明を行いました。

世界の潮流から日本の事例に移り、官民のパブリックな空間をウォーカブルにしていくそのようなまちづくりのムーブメントが起きていること、またそれを政策的な形づくりを進め、令和2年度より「まちなかウォーカブル推進事業」等の「居心地が良く歩きたくなるまちなか」に資する制度創設等について紹介しました。

続いて神戸市からは、都心三宮の再整備における先行的な取組の紹介が行われました。

「人が主役のまち」、「居心地の良いまち」をコンセプトとし、三宮周辺地区内の「えき」（6つの駅とバス乗降場）と「まち」をつなぐ神戸の象徴となる新しい駅前空間「えき～まち空間」を創出すると語りました。また、その核となる三宮クロススクエアは、2025年に現状10車線ある車線を6車線へ、2030年には6車線を3車線へと段階的に、かつ大胆に人中心の空間へ転換を進めていくとの考えを示しました。

【神戸のストリートを手掛ける公共空間のスペシャリスト3名が語る】

次のプログラムではプレゼンセッションとして、神戸のストリートの改変に携わっている3名の専門家がそれぞれの視点から「これからのストリートが果たすべき役割」についてプレゼンを行っていただきました。

1人目のプレゼンターとして「歩きたくなる^{みち}街路のデザイン」と題し、小野寺氏が登壇しました。

冒頭、自身を“ハード屋”と称したうえで、「まちのデザインはハードを整備するだけではいけない、しかしデザインによって人の行動を変えることができる」と語り、景観デザインによって空間だけでなく人の行動までを転換させた事例を紹介していただきました。



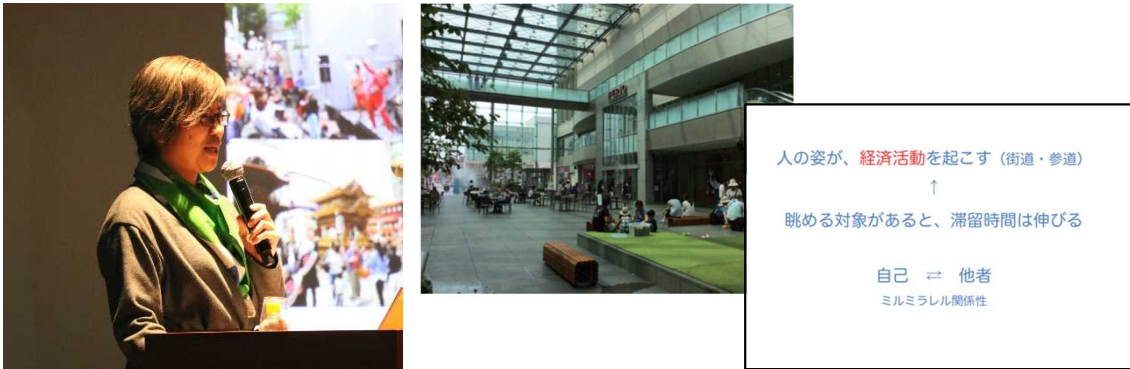
小野寺氏によるプレゼン。右は、神門通りでの歩道舗装のにじみだし状況。

講演の中で、事例の一つとして、出雲大社の参道である神門通りをあげ、車道と歩道を分ける白線で舗装パターンは切り替えず、あえて少し内側（車道側）に歩道の舗装パターンをにじみ出させることで、歩行者にとって歩きやすく、自動車が遠慮する風景を作ったとのこと。ちょっとしたアイデアとデザインで、街路空間が大きく変わることに会場の多くの人が強く頷いていました。

また、姫路駅前広場は、国内で唯一、世界遺産と正対する駅前広場だそうです。駅前広場を再整備する動きの中で、サンクンガーデン上空にデッキを設けるデザインを原案として計画していましたが、その後、地元ワークショップを行い、デザインを再検討した結果、今の姫路駅前広場に至り、結果駅を降りると姫路城が見え、快適に歩いて姫路城に行けるようになりました。

「デザインによって空間は変わります。ちょっとしたディティールのニュアンスや素材でも変わります。しかし、大事なのはそれを実行しようとする人や考え方です。やる気のある行政マンがいたからこそできた。もしいかなかったら出来なかった。」と小野寺氏は景観デザインにおける行政のスタンスの重要性について語りました。

2人目のプレゼンでは「まちなかの公共空間が生み出す価値」と題し、山下氏が登壇しました。これまで関わってきた様々な空間利用の中で、富山グランドプラザ、神戸市のモヨリノ（住まい・学校・職場の近くにある「最寄り駅」をリノベーションすることで、その街で暮らす日々がより豊かに楽しくなることを目指すプロジェクト）の事例について解説していただきました。



山下氏によるプレゼン。右は、富山の事例とミルミラレルの関係。

富山グランドプラザは、再開発ビルと駐車場の間にある広場です。山下氏は、駐車場に車を停めて、再開発ビルと行き来する人が広い広場で足を止め・座り・眺め・語り合うそんな雰囲気醸成し、「賑わい創出は人が居ないと始まらない。人の集まる場の条件として、立地を非常に重要視している。」と語りました。また、グランドプラザでは広場をフレキシブルに使えるよう、広場内のベンチ等の施設は全て可動式にしているそうです。

さらに、山下氏は、「眺め」を重要視し、まちを見渡してみたときに、時間を潰している人やぼうっとしている人など、何もしていない人が居ることの大切さ、何もしてなくてもなんとなく佇むことのできる空間の必要性を説きました。

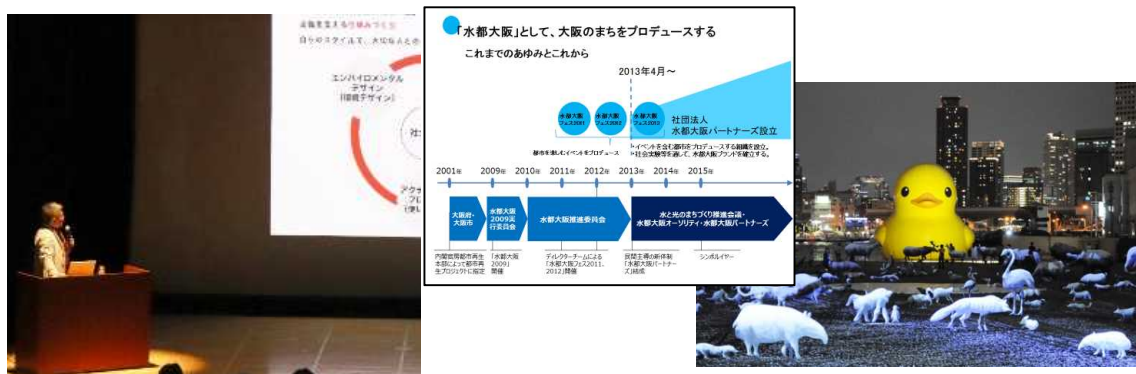
「自分が見られていることを意識する事が大切で、私たちは見ていると同時に見られています」と富山市の事例の中で語ったのは、『見られる』を意識できたおかげで市民の服装がオシャレになり、広場周辺のテナントではファサードを改装し、これらが経済効果を生み出したという経験から得た知見とのことでした。

加えて、「話すことだけがコミュニケーションではありません。お互いがお互いを眺めることもコミュニケーションとなり得ます。そういった関係性を構築できるのが広場空間の価値ではないでしょうか」「通販で何でも買える時代に何を求めてまちに出るのか、みんなで議論する必要があるのではないのでしょうか」と、山下氏は会議参加者に語りかけました。

終わりに、山下氏自身が今年から神戸市民になったことを明かすと会場からは驚きの声。「神戸にはまだ市民の活躍の場が足りていないと感じています。これからに期待しています。」と話を締めくくりました。

3人目のプレゼンは、「公共空間における官民連携」と題し、忽那氏が登壇しました。社会課題に対して、「環境デザイン」「仕組みづくり」「使いこなし」の関係性を持たせ

て構想すること、また官民連携の為に行政と市民の関係性だけではなく、専門家など複数の関係者が集まって、共に行動し議論する構想部分から実際の設計や施工に繋げる動きが非常に重要であると語りました。



忽那氏によるプレゼン。右は、水都大阪の事例。

初動期をどうすればいいかという誰もが悩む疑問に対して、大阪でアンケートをとった事例を紹介。困っていることに対して助けたい、変えたいことが自分のやりたいことに直結すると話し、「初動期を支える、中間支援を作る、官民共同のビッグビジョンを描くという3点が大切です。小さな活動から始める。スモールイズベスト。成功すれば継続して、だめだったら止める。」と仕組みづくりのポイントを解説しました。

水都大阪では、2013年に水都大阪フェスの中間支援組織『一般社団法人水都大阪パートナーズ』を結成し、社会実験やイベントを通じて水都大阪ブランドが確立していくことで、当初3店舗で始めたカフェが、現在では15店舗になっているとのこと。成功と失敗の違いは規模が要因ではなく、成功事例も小さいことから始め、「自分たちにもできそうだ。」と思えたことが重要だと話されました。

「突発的なイベントをするだけではそれで終わります。それでは意味がありません。むしろお金がかかるだけなので止めたほうが良いです。大切なのは、価値を生み出し次に繋げる『バリューチェーン』であり、中間支援があるからこそ多種多様な事業に繋がっていく。」と、公共空間において官民で将来ビジョンを描き、それを繋げる中間組織の存在が重要であると語りました。

【街路をはじめとした公共空間に関して幅広いディスカッション】

続いて、コーディネーターに神戸芸術工科大学 教授 長濱伸貴氏をお迎えして、これまでの各セッション登壇者による、ディスカッションが行なわれました。三宮の現状や今後の議論に始まり、会議中に寄せられた質問や意見への回答を中心に議論は進行了ました。

冒頭、長濱氏はまちの空間構成の現状について「三宮は概ね直径1.0km円程度の範囲の地区である。車のための空間と人のための空間を数値で示すと、車のための空間が43%、人12%、建物28%、海17%となっており、ウォーカブルな空間は僅か12%だということがわかる。人のための空間をいかに増やしていくか。今ある空間の質をどう高めていくかを検討する必要がある。」と語りました。

加えて「プレゼンセッションにおいて各登壇者からは、大きく分けて“形” “動き” “仕組み”についての示唆があったことと思う。この3つをいかにバランスよく機能させるかがこれからのミチを変えていく。」と語り、質問や意見への回答に移りました。



長濱教授による趣旨説明。



パネラーによる白熱したディスカッション！

参加者からの「景観デザインにおけるステークホルダーやソフト施策との関係性」といった質問に対して小野寺氏は、「神門通りのケースでは、ワークショップを哲学者が主導した。その方の考えで、中学生などの子どもたちにも参加してもらい、彼らのストレートな意見に耳を傾ける流れとなった。」と語りました。

「プレイヤーは存在するのか、どうやってプレイヤーの発掘をすればいいのか。」との質問に対して山下氏、忽那氏は見解を同じくし、「どの地域にもプレイヤーは必ずいる。」と断言しました。プレイヤーが集まらないのは、居ないのではなく伝え方が間違っているのでは、との指摘もありました。

「4万人規模の地方都市でも何らかの取組みは可能なのか」との質問に対して、国土交通省から「個別に自治体からも複数の相談を受けているが、小規模な都市も多い。良い意味で小さな都市には場所がある。今回冒頭で説明させていただいた制度等については、大きい都市だけでなく地方が頑張っていくような仕組みになっていると思う。」と、政策立案の立場から地方都市への可能性を示唆しました。

「警察協議をどう進めたらいいのか。」との質問に対し神戸市からは「あるべき論からビジョンを形作り、話を進めた。最初は警察も出来ないと言っていたが、将来目指し

たい方向性を理解してもらい、シミュレーションを見せ、段階を踏んでいき社会実験と
いったプロセスを進めていった。」と回答を頂きました。やはり、ビジョンの共有とま
ずは「小さく始める」ことは、事業を進めていく上で有効なようです。

【次年度に向けて！！ ～ 街路は人のために ～】



本田課長による会の締めくくり

白熱のディスカッションセッションの後、国土交通省 都市局 街路交通施設課 本田
武志課長より次年度に向けて宣言がありました。令和2年度の予算制度等について「各
種制度については始まったばかりであり、適切に運用していくためには皆さまの協力が
必要です。PDCAをどう回していくか、国と皆さまだけではなく、皆さま同士のサイ
クルを回していくことが必要です。マチマチ会議は来年度もやりますので、より良い会
議とし、仲間づくりをしていきましょう。」と語りかけました。そして、「街路は人のた
めに」との言葉で本会議を締めくくりました。

前回の1.5倍もの参加者が全国から集まり、街路の「作る」「使う」「仕組み」をリー
ドする専門家らが各セッションを繰り広げた今年の「マチマチ全国会議 in 神戸」。参加
者の街路空間再構築・利活用に対するモチベーションや裾野の広がりを感じ、これから
のマチマチ関係者たちの切磋琢磨が期待されます。

事後アンケートの結果でも、「一歩踏み出そうと思った」「できるか分からないけどわ
くわくした」など、ポジティブな感想が多く集まり、ウォーカブルな都市空間づくりへ
の機運が更に大きく高まった会となりました。

【マチミチ全国会議 in 神戸 開催概要】

日時：2020年1月24日（金）14時～17時

場所：神戸ポートオアシス（兵庫県神戸市）

主催：国土交通省 都市局 街路交通施設課・神戸市

～プログラム～

■行政セッション「ウォーカブルな都市空間の実現に向けて」

- ・国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官 奥田蔄夫 氏
- ・神戸市 都市局 都心再整備本部 都心再整備部 都心三宮再整備課 課長 清水陽 氏

■プレゼンセッション「これからのストリーートの果たすべき役割」

登壇者

- ・小野寺康都市設計事務所 取締役代表 小野寺康氏
- ・全国まちなか広場研究会 理事 山下裕子 氏
- ・株式会社E-Design 代表取締役 忽那裕樹 氏

■ディスカッションセッション「これからのストリーートの作り方・使い方」

- ・パネラー：行政セッション及びプレゼンセッション登壇者
- ・コーディネーター：神戸芸術工科大学 教授 長濱伸貴 氏

■次年度に向けて

- ・国土交通省 都市局 街路交通施設課 課長 本田武志 氏

